

平成 24 年 10 月 30 日 00090 号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-61-4804 Fax:0157-23-0581

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

ニュースレター【事務局情報】待望の武道館 遂に着工!!



武道館の建設工事が本格着工されました。工期は来年の9月中旬までとなっており、10月17日から基礎工事が行われています。工事現場の東陵公園を訪れると、パワーショベルや大型の杭打ち機械で、掘削工事や杭打ち工事の真っ最中で、「いよいよ始まったか」と完成への期待が膨らみます。この一年、

市の要請から武道振興協議会としてプロポーザル選定委員への就任のほか、設計に関わる意見交換も交わしてきました。設計にはこうした取り組みの成果が反映されています。工事の実施には、設計業者のアトリエブク、エヌ・ケー特定委託業務共同企業体が工事監理業務を担うと伺っていますので、設計どおりの武道館が出来上がることでしょう。



【第 17 回北見市総合武道祭レポート】①空手

演武者の方々にコメントを頂きました。・大矢ひとみさん『一大決心の末に、どうしても習いたかった空手を始めて7年目。なかなか思うように体が動かず、でもとっても楽しいのです。今年も、武道祭に参加させて頂き人生の良い思い出になりました。これからも諦めずに80歳まで続けるつもりです。』・草薙 満さん『武道は、これで良しとすることはありません。探究心や好奇心を常に失わず弛まず継続することで新たな発見や気付くことを一つでも多く蓄積して、積み重ねて行きたいと思います。一つでも、見学に来た皆様に伝える事が出来れば幸いです。ありがとうございました。』



次週は居合道をご紹介します。

連載【週刊氷川丸】⑧氷川丸の終戦後

1945(昭和 20)年終戦後、満洲、台湾、中国、南洋諸島等から約 750 万人の日本人を内地に引き上げる必要に迫られました。氷川丸は南方の島々に餓死寸前に取り残された兵士 2 万人復員輸送を 1946(昭和 21)年 8 月 15 日まで 1 年間行いました。その後氷川丸は、60 万人の日本兵士がシベリアに抑留された満洲から、ソ連軍の暴虐を逃れた一般邦人の引き上げ輸送のため、大連北方のコロ島と福岡の間(距離約 1,120km)を 3 往復しました。



多数の引揚者が寄せた感謝状には次のような一節があります。「待望の御船に便乗致し、御丁寧なる御取り扱いに私共は祖国の有難さをつくづく感じました。(中略)おいしい麦とお米の御飯、何日ぶりかのお風呂、おやつのみかん、ほっとする気持ちです。私共は新京(長春)出発以来の苦労がすっかりほぐれ、只有難いという感謝の気持ちでいっぱいです。氷川丸便乗の日々は一生の思い出になることでしょう。本当に有難うございました。」つづく
次週は氷川丸と北海道航路をお伝えします